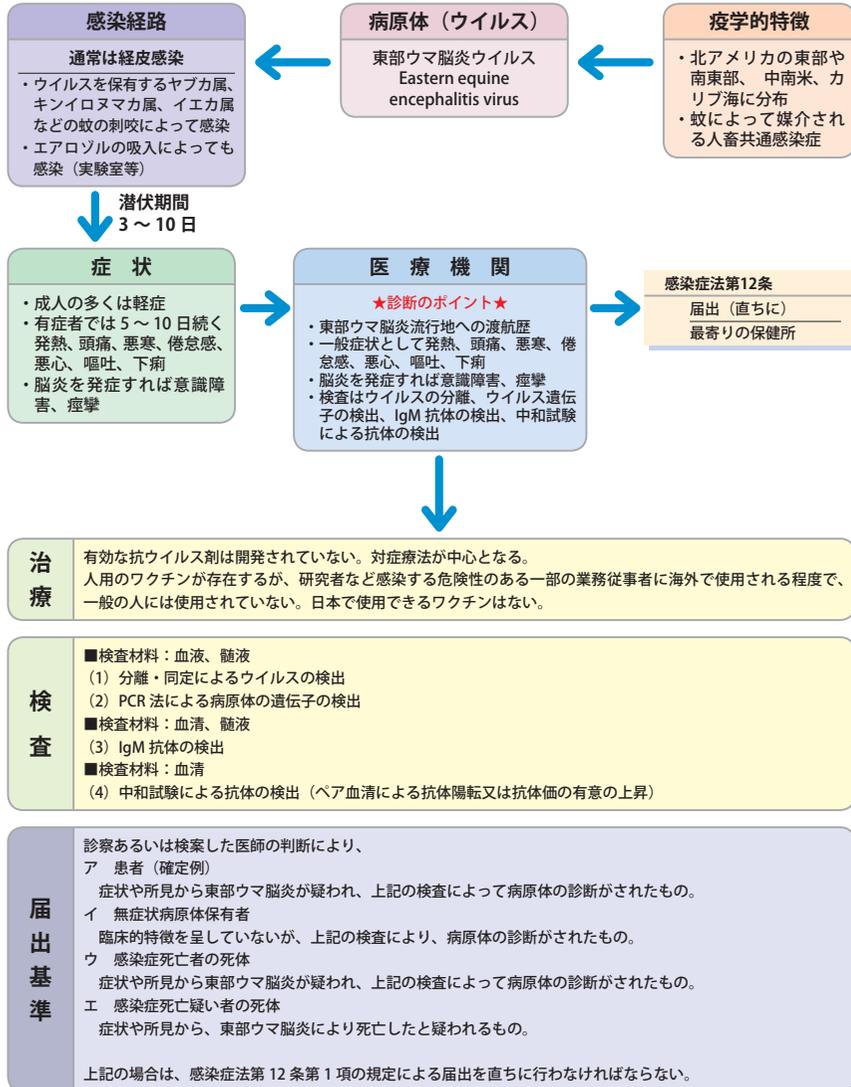


(23) 東部ウマ脳炎 ………四類感染症

Eastern equine encephalitis : EEE



参考図書

- (1) CDC. Eastern equine encephalitis. <https://www.cdc.gov/easeneuencephalitis/index.html>
- (2) Beckham JD, Tyler KL. Encephalitis. Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases 8th Ed, Bennett JE, Dolin R & Blaser MJ ed., Elsevier Saunders, Philadelphia. 2015. 1144-1163.
- (3) Markoff L. Alphaviruses. Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases 8th Ed, Bennett JE, Dolin R & Blaser MJ ed., Elsevier Saunders, Philadelphia. 2015. 1865-1874.

発生状況 アメリカ合衆国の東部や南東部、カナダ南東部、中米、南米北部・カリブ海諸国に分布する。蚊と鳥の間で感染環が維持されており、ウイルスを保有する蚊の刺咬によって馬や人へ感染する。

臨床症状 無症状で経過することが多い。軽度の感冒様症状で終わる場合もある。発熱、頭痛、悪寒、倦怠感、悪心、嘔吐、下痢などがみられるが1～2週間で回復する。一部で脳炎を発症し様々な程度の意識障害や痙攣がみられる。脳炎発症者の死亡率は30%以上と高く、60歳以上で50%に達する。脳炎後生存者では神経学的後遺症を残す確率が高く（3割あるいは高いものでは7割とする報告がある）、小児ではさらにその確率が高くなる。

検査所見 検体：血液、髄液
分離・同定による病原体の検出
PCR法による病原体の遺伝子の検出
検体：血清、髄液
IgM抗体の検出
検体：血清
中和試験による抗体の検出（ペア血清による抗体陽転又は抗体価の有意の上昇）

病原体 トガウイルス科アルファウイルス属東部ウマ脳炎ウイルス (Eastern equine encephalitis virus) で、本ウイルスは、西部ウマ脳炎ウイルス、ベネズエラウマ脳炎ウイルスの近縁種である。

感染経路 自然界では蚊と鳥の間で感染環が維持されており、鳥への媒介蚊は主にハボシカ属の蚊 (Culiseta melanura) である。人への感染は、ウイルスを保有するヤブカ (Aedes) 属、キンイロヌマカ (Coquillettia) 属、イエカ (Culex) 属などの蚊の刺咬による。実験室ではエアロゾルによる感染も起こり得る。

潜伏期 3～10日間とされている。

行政対応 診断した医師は、直ちに最寄りの保健所に届け出る。

拡大防止 人用のワクチンは存在するが一般的でなく、日本でも接種はできない。媒介する蚊を駆除する。蚊の発生を防ぐ目的でたまり水を除去する。感染地域に立ち入る場合は、虫除けを使用し長袖と長ズボンを着用する等、蚊に刺されないよう努める。

治療方針 有効な抗ウイルス剤は開発されていないので、症状に応じた対症療法が中心となる。